まき

発行所
西蒲原郡
巻町公民館
発行責任者
樋口弘雄
印刷所　北斗印刷株式会社

2月の町政を語る分館集会

社会のうつり変りに応じて、町の進む方向を見え出し之に沿って発展策をこうじている巻町は、さきにおしらせしたように、町勢調査会をつくり、企画調査課を設けて、仕事を進めているが、これを町民皆さんから知っていただき、また皆さんの町政や産業や教育についてのご意見もおききするため、公民館、役場が一緒になって分館毎の集会を催している。

二月十二日夜竹野町分館で農協、農研、婦人会等の代表者の意見発表があり、土田助役、高橋企画課長の町の方向や、調査会のお話しがあって、和かな中にも真剣な研究討議がなされた。

二月十五日は角田分館で、部落全体集会の形で、産業道路、観光などについて、土田助役、野沢経済課長を囲んでいろいろつっこんだ話しあいがなされたが、折角の集会に参加者が少なく残念なことでした。

なお、二月の予定は

二月二十三日　福井分館
二月二十五日　並岡分館
二月二十六日　稲島分館
二月二十七日　松野尾分館

講師としてお話し下さる方は

助　役　土田藤孫子
企画調査課長高橋　新一

役場だより

〝納税相談日のお知らせ〟

左の日程により町民税、県民税、所得税について共同納税相談所が開かれますから利用願います。

○浦浜駐在室　三月　三日
○漆山駐在室　四日～六日
○越前小学校　七日
○四郷屋小学校　七日
○松野尾農協　八日～九日
○福木岡農協　十日～十二日
○竹野町公民館　十日～十二日
○巻公民館　十三日～十五日
○巻町役場　十六日～二十日

時間は午前九時より午後四時頃までで各会場により若干の違いがあります。

税務課

保育園入園おしらせ

保育園入園希望者は松野尾と漆山で各々十数名、巻保

保育所	日	時	会場	地域
松野尾	2月23日	前10.30 後3.30	松野尾公民館	全域
漆山	2月24日	前10.00 後3.30	漆山駐在室	全域
巻	2月25日	前9.00～後9.00	役場議員控室	赤さび～六区
	2月26日	後4.30～5.30休けい		七区～全域

明るい町づくり部落づくりをめざして
巻町区長研修会

一、趣旨
町村行政の円滑なる運営のため区、町内、部落の長の協力に負うところは大きい。近時、役場はじめ各機関、団体からの依頼事項や連絡事項も増加している。この繁雑の仕事の外に、地域集団である。区長内、部落自体の業務と運営は、区長はじめ役員の本来の重要な任務である。今回は、明るい町づくり村づくりをめざして、地域行政のあり方について研修したい。

二、主催
巻町

三、日時
三月二日午前十時より

四、会場
巻町公民館ホール

五、講師
新潟市社会教育課長　吉津勝栄殿
新潟日報論説委員　成沢　猛殿

社会に巣立つ中学卒業生を迎える会
―三月二十三日　藤見座劇場で

毎年行なっているこの会は、今年も、教育委員会、婦人会、青年団、共催で開催いたします。本年は生業に、就職に、実社会に巣立つ中学卒業生の方は男女で二七二名の予定です。

建設課より

経済課長　野沢　政雄

贈与税の申告も忘れずに

昭和三十九年を通じて四十万円以上の財産（土地、家屋、株式、預金）を貰った人は忘れずに二月末日までに税務署へ申告下さい。

巻町婦人団体39年度総会
三月七日巻小で

巻町婦人団体連絡協議会の総会が三月七日、午前十時より、巻小学校体育館で開催され、当日は県社会教育講師団の三条市桑原真子さんが講演して下さる予定。

巻町の年輪⑥

僻村の診療につくす
峰岡　赤沢真次郎（77才）

昭和十六年、新潟毎日新聞に連載された「祖先競」欄に――継ぎ伝えた匙加減、典医、町医者連綿十代に亘る――というみだしで、赤沢家のことが載った。

これによると、赤沢家の先祖は小笠原氏を名のり、伊豆赤沢山の城主であった。医業の初代は赤沢玄昱といい、伊豆松平氏の典医（藩主お抱えの医者）で三代のとき越後に移住し、与板藩のそれを経て三根山藩主五代牧野忠廉に招かれ

八代にして明治維新をむかえた。

当主真次郎先生は赤沢家十代のお医者さんで、大正二年金沢医専を卒業後、五泉市傷めた右足の不自由をおして徒歩で往診に出むいた。

父常正先生（東京大学に学び、近代医術を郷土にもちかえる）の没後、赤沢病院を継いだ。大正十年のことである。

以来四十余年にわたり、熱心として近郷の病人の診療に当り、殊に無医村をかこっていた間瀬、五箇、角海の手入れだけは怠るなと家人を促すなど、気丈夫な方と伺っている。

爾来、庄瀬に開業したが殷々たる人柄は敬慕の的となっている。

又、母校入徳館校初め、各地の校医を勤める一方、郷土の教育には私財を投じて教具その他を寄付した。

三十二年中風で倒れ、昨年夏からはすっかり病床に臥す身であるが、毎朝聴診器の音が聞こえるなど、家人の手入れだけは怠るなと家族に言っている。

雪の間瀬、五箇峠をフカグツばきで通い、幾度となく足をとられては倒れた。これは老先生の生涯にとって忘れ難い思い出であろう。

十代にわたって「医は仁術なり」をモットーとしてきた家柄だけに「生活に困っている人から無理に金をとるな」と自ら戒しめ、無欲恬淡たる人柄は敬慕の的となっている。

NHKでカラーテレビとFM放送の受信公開
―三月二日午後七時より　会場巻町公民館―

皆さん近隣おさそいの上お気軽るにおでかけ下さい当日は、FMは、夕べのステレオ、カラーテレビはジェスチャー、お笑い三人組です。

巻町婦人講習会
二月二十日公民館ホールで開催
―巻町全地域から七十名参加―

生活の中に〝ゆとり〟や〝うるおい〟が少なくなり、所得と消費文化を追う生活が続くといわれます。地域や団体は勿論、家庭でも、個人でも、この社会変動の波の中に解決しなければならぬ沢山の問題をかかえています。この講習会は、明るい家庭をつくるため、時代に沿った〝生活の工夫〟を研修する集会でした。

講師
県社会教育主事宮川先生

巻、西川、潟東合同の青少年指導者講習会開かれる

目まぐるしい社会の移り変りとともに産業（特に農業）の型態がいちじるしく変って来ました。この中で農村に残る青少年は年毎に減ってきています。この少ない青少年が、これからも変化を続けるであろう農村構造の中で、その変り方を見つめながら、的確な判断のもとに、自分達の進む方向を見い出し、グループや、団体の組織づくりを考える足がかりとするため。

新潟県教育委員会、西蒲原郡公民館連絡協議会が主催し、来る二月二十六日、二十七日の二日間、弥彦のみのやを会場に開催されます。講師には、県農業教育センター長、藤井正弘氏をはじめ、県社会教育主事、宮川先生、亀山先生、ならびに西川町、潟東村、巻町各公民館長がみなさんの話し合いの助言者として予定され、レクリエーションを多分に取入れた気楽な研修会を予定しています。

土木出張所の誘致問題が話題をにぎわしている。悪名高いデコボコ道路をなおすため、地元に土木出張所がなければと町村会では一致して誘致を決めた。

◇ここまではよいのだが、さて建設位置をめぐっての巻、吉田両町間で宿命の争奪戦が展開された。「巻町はけしからん、紳士協定を破って独自の運動をはじめた」と吉田側が攻撃すれば「吉田町こそ抜けがけに議会で誘致議決したではないか」と巻町も負けてはいない。

◇町村会ではついに決めることができず、地元県議団を交えての新潟会談となったが火中の栗を拾うおめでたい県議はいない。案のじょう県の新年度当初予算には間にあわず、当分タナ上げの形となった。やんぬるかなである。

◇郡都を自任している巻町民はこの際大いに反省して、町勢の振興に声を大にして協力すべきである。すべての面で町の実力が上がれば誘致問題もおのずと解決する。三万町民の一そうの奮起を期待したい。（吉）

〃巻町と工業〃

巻町に、工業は育たないといわれている。町として幾たびか、工場誘致に熱意をもやし、いくたびか具体化されたが結果は、工場誘致は実を結んでいない。

けれども、農村からは、仕事を求めて、どんどん出てゆく。巻駅から燕の工場に通勤している者だけでも六百人からあるときく。巻に家内工業的なものでも増える可能性はないのだろうか。

現に巻町で、工業にとりくんで、仕事をつづけて居られる左記の方々の〃巻町と工業〃の座談会の模様をお伝えします。

写真右より

巻町十三区
足立製作所　足立幸久氏
巻町一区
勝山ヒューム管工業　勝山喜一郎氏
巻町九区
株式会社本間商店　本間秀夫氏
巻町竹野町
大和ブロック池藤正治氏

司会　皆さんのところでは、どんな製品を作っておられるんですか。

勝山　私のところは、小さいので使用人も少く、セメント製品ですが、新潟ユーム管の代理店もやっています。

本間　はじめて二年半になるでしょうか。四十名程使って、ミシン部品は東京へ、メリヤスは五泉へ出しています

足立　当初は金網でした。十年になりますが、四年前から同じ金網でも、ステンも使ってみました。二年前からキッチンセットを作って、燕に納品しています。

池藤　うちはブロック専門で、創業六年です。

司会　如何ですか、皆さんの立場で、巻は工業の育ちにくい所だとお考えになりますか

本間　丸善が創業当初、今と同じくらいの人員だったでしょう、巻は工業の育ちにくい所だとお考えになりますネ

池藤　原料を渋川から運ぶのですが、その点痛切に感じますよ。向うでは、大した土盛りもいらない。広大な、しかも便もよい場所（山村、原野、畑）が安く入手出来るんですから土地条件の点で、巻はよくありません。

勝山　けれども、土地が安いとはいえ、吉田、弥彦の沿線には工場が伸びて来てますね

足立　低開発地の工場設置のことが新聞に出ていますが、吉田、柏崎間も伸びるんでないですか。

本間　県の産業百万都市構想の中に、京浜工業地帯とのつながりを持つことの一つに、汽車の時間のことがありましたが、東京との連絡は、よくなりましたね。ただ東京と巻が即時通話になってくれたらと思いますよ。

司会　他地区の話も出ましたが、燕なり、吉田なり、或は五泉なりの地区と比較してみて、感ずることを話していただけませんか。

本間　それに鉄道の本線でない不便さ、そんなものも大きな工場になると影響しますネ

足立　それに鉄道の本線でない不便さ、そんなものも大きな工場になると影響しますネ

勝山　いと思えば伸びもしませんし伸ばしませんよね。

足立　それに鉄道の本線でない不便さ、そんなものも大きな工場になると影響しますネ

池藤　うちは原料を渋川から運ぶのですが、その点痛切に感じますよ。向うでは、大した土盛りもいらない。広大な、しかも便もよい場所（山村、原野、畑）が安く入手出来るんですから土地条件の点で、巻はよくありません。

勝山　けれども、土地が安いとはいえ、吉田、弥彦の沿線には工場が伸びて来てますね

足立　県の産業百万都市構想の中に、京浜工業地帯とのつながりを持つことの一つに、汽車の時間のことがありましたが、東京との連絡は、よくなりましたね。ただ東京と巻が即時通話になってくれたらと思いますよ。

司会　他地区の話も出ましたが、燕なり、吉田なり、或は五泉なりの地区と比較してみて、感ずることを話していただけませんか。

本間　われわれの様な下請けの仕事をしている立場では、限られた部品の製作を続けていて、如何にも安定している様だけれども、小さいながら工場を持ち、人を使っているからには、何か思いきった仕事をしたい意欲にかられますが、離れた所に外注に出すと、技術やアイデアをまねされると思うのか、引合いが少い。その点東京周辺は勿論だが、燕や吉田はやはり引合いが多いですよ。

足立　巻の商工会は、商業会だといわれる位、工業は少いでしょう。だから従業員間の話題も違うし、お互いの間の技術のセッサタクマが足りないですよ。燕は午前、午後とも休みは十分が多いでしょう。休けい時間に、自分の用を足して、すぐ仕事にかかりますが、巻は全般にその点のんびりしていますよ。

勝山　衛生的には問題があるにしても、まず一ブクの時、巻の者は、仕事したままの手で一ブクやりたがらない。やはり収入が少くとも、ネタイ族の町でしょうか。

司会　巻町は、名実共に工業の育たない町だと思いますか。育つとすれば、どうあったらよいとお思いですか。

本間　やはり下請けを出すような工場がほしいですね。私たちの強みは、働き手にそう苦労してない点です。皆さんのところも同じ様に、女子従業員が多いでしょう、この点ですよ。それと道路ですよ、鉄道の問題もあるが、今は自動車の時代ですから。

足立　町内の道路は庭車禁止、周辺はどっちへ出ても悪い。本間さんの話の様に距離よりも道路さえよければ、松野尾でも角田でも、工場敷地として、やはり安価な道路になりますよ。しかもこれから、マイクロバスの時代になりますからね。

池藤　うちは従業員の過半が農閑期にくる。地元の女ですが年間三分の二は、当方の仕事、実際に田や畑の仕事は三分の一ですから、人手に困ることは現在ないです。今お話しのあった様に、うちの製品も、新潟はじめ郷内外に出していますから道路さえよくなればと思っています。

足立　金融機関も、工業に対する積極的な支援が、他地区に比べて足りませんね。製品や、計画を持って行っても判ってくれませんよ。金あつめに歩く金融から工業にてこ入れしてくれるものになったらと思います。

勝山　燕類は問いませんが、家内工業的なものが、やり方によっては育つところですよあてのない工場は建てられませんが。

司会　その育つためのポイントは、今もお話しがありましたが、外にどうでしょう。

勝山　燕なり三条なりでやっている者の中で、工員からたたき上げて小さくとも一本立ちした者が多くいるでしょう。巻から燕通いは、今はじまったことでないですよ その人達や、その人達をとりまく者の事業意欲ですネ

足立　自慢話にはなりませんが、うちで作った「苗かご」あんなものが、何万個もハケルんですから、土地に沿ったアイデアマンが出ることと、年間の大部分が遊んでいる。農家の作業場の利用方法ですね。

本間　町として、これは役場だけではありませんが、事業家とのつながりの不足です。古い話ですが、丸善の社長さんが巻町に疎開して居られたことすら知らずに過したんです。

池藤　ブロックを作りはじめた頃は感じませんでしたが、もう関連産業の時代ですから一人だけの工場や事業でなく、広い関連の上で伸びるわけで、仕事をするわれわれと、商工会や行政や、よく判らないが例えば〃八日会〃などがこのことをとりあげてくれたらと考えます

足立　加茂の東芝へ行ってみますと、門前の自動車の並んでいるのに驚きます。その中に市町村や団体の車もあるんですよ。入札や注文はかりでなく、自町村の業者のバックアップもあるんでないかと気をまわしたこともあります。

司会　最後に業界にあっての感じをひと言づつ。

本間　過酷で、冷談で、どん慾ですが、男としてやりがいがある。

足立　話しにも出た人手だが、手と足だけの従業員であっては事業は伸びない。頭（考える）のある、時間を大切にする者がほしい。燕は十人で一日百の製品をつくる巻は十人で五十では困る。

池藤　兼業農家が増えるが、この仕事なら専門工員に負けないという技術と、ファイトを持つ農家の人がほしい。

勝山　工業に従事する人、所謂「こうば通いの人」を軽べつしないでほしい。その仕事が、どんなきたない仕事であっても。働く人自身も、もっと誇りをもってほしい

この三月巣立つ
―中学卒業生の進路―

今年の三月には、巻町内の中学校から巣立つ生徒が八一四名を数える。

この中には進学する者、家業を手伝うため家庭に残る者、故郷を遠くはなれた職場に働く少年達と、新らしい社会への第一歩をふみ出そうとしている。

少年達のたどる人生はけわしくとも、それぞれの進路に若い希望と夢を抱き、胸ふくらませて、きびしい社会に独り立ちしてゆく晴れの門出でもある。

これ等少年達の進路を大別して集計して見た。前途に幸多かれと祈念しながら―

中学卒業生動態希望調査（昭和39年2月10日 昭和40年2月10日調べ）

学校名	年度	進学 男	進学 女	就職 男	就職 女	在家（農） 男	在家（農） 女	在学（農外） 男	在学（農外） 女	計 男	計 女	計
浦浜中	昭39	7	1	4	6					11	7	18
	昭40	4	5	1	1					5	6	11
峰岡中	昭39	47	38	9	13	1	6	1		58	57	115
	昭40	39	58	14	11		4			53	73	126
巻中	昭39	110	113	56	44	10	11	3	7	179	175	354
	昭40	140	134	46	27	5	10	3	21	194	192	386
篠山中	昭39	43	31	17	25	7	3	3		70	59	129
	昭40	36	34	22	14	10	15	3		71	63	134
浜松中	昭39	43	31	17	25	7	3	3		70	59	129
	昭40	31	27	30	22	2	7		2	63	58	121
四ツ郷中（赤塚中）	昭39	7	4	4	2	1	3			12	9	21
	昭40	0	5	3	4	0	1			3	10	13
計	昭39	250	221	112	104	29	38	10	7	401	370	771
	昭40	251	291	112	82	17	35	3	23	383	431	814

おらが老人クラブ

竹野町あやめ会　会員五十七名

昔、草角力はなやかりし頃、竹野町では大関格の力士に「蒲蒲石」の醸名（しこな）が与えられる習わしがあった。「菖蒲山」は金仙寺の山号で、伝説菖蒲御前が巻町に疎開して居られたことすら知らずに過したんです。

池藤　ブロックを作りはじめた頃は感じませんでしたが、もう関連産業の時代ですから一人だけの工場や事業でなく、広い関連の上で伸びるわけで、仕事をするわれわれと、商工会や行政や、よ

本間　町として、これは役場だけではありませんが、事業家とのつながりの不足です。古い話ですが、丸善の社長さんが巻町に疎開して居られたことすら知らずに過したんです。

池藤　ブロックを作りはじめた頃は感じませんでしたが、もう関連産業の時代ですから一人だけの工場や事業でなく、広い関連の上で伸びるわけで、仕事をするわれわれと、商工会や行政や、よ

のほかに幕軍が八名。全員民謡から流行歌までこなし気がそろって発足以来きわめて民主的に運営されていることで「評判がよい。

又この村では、百一才まで長生きして県知事から表彰された故阿部シゲさんがいたわけでもなかろうが、長寿者の層が厚く、今年九十一才になった鈴木柴蔵さんを筆頭に、八十才以上の方が十五名ほどもおり、その多士彩々というのが、あやめ会の自慢である。この二月十四日の新年初のつどいに、この村の生れの上原常次さんが珍客として参加して少年時代の想い出話に花を咲かせた。

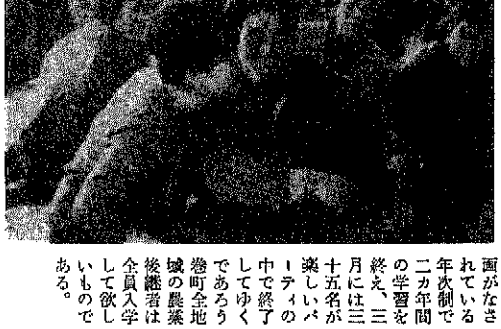
懇親会ともなれば、ノドに自信のある副会長の佐藤さんがいつもリーダー格で、伝来の岩戸神楽（真の舞）では太鼓を打ち、唯一の唄い手でもある。大正五年兵として海軍に入隊してきた堀内栄作さん（70才）の裸踊り、モモダンゴ等は、文字通り秘中の秘芸として、ときたま公開されて、会員の腹をかかえさせる。正に多士彩々というのが、あやめ会の自慢である。この二月十四日の新年初のつどいに、この村の生れの上原常次さんが珍客として参加して少年時代の想い出話に花を咲かせた。

実習などにとり組みながら自宅ではラジオを聴取し、月二、三回の集合研修には仲間達との親睦を深めながら学習を続けている。

このラジオ学校は、昭和三十六年より開設され、今年で五年目であるが、毎年の卒業者の中で農業に従事している者は全員が参加している。

農業に関する初歩から、夏のキャンプ、他町村との交歓会、収穫祭など楽しい計画がなされている年次制で二カ年間の学習を終え、三月には三十五名が楽しいパーティの中で終了してゆくであろう巻町全地域の農業後継者は全員入学して欲しいものである。

若い農業後継者の集い
巻町ラジオ農業学校



おかっぱ頭のあどけない顔が、テキストを中心に農業の専門用語にとり組んでメモをとっている。ラジオ農業学校の集合研修に参加している数少い農業後継者の卵である。

中学卒業生の中で家に残り農業に従事する者が、昨年はその九%（六七名）、この三月には七%（五二名）と年々減って来ている。この少年達が農業を基礎から修得しようと、その理論、